



平成17年度の大学運営上の重点取り組み分野

(年度計画のダイジェスト版)

【国立大学法人滋賀医科大学】

(前文)大学の基本的な目標

滋賀県は、現在、人口の増加率が日本一高い県であり、「近い将来には、高齢化率が一番低い県(一番若い県)になる」と予想されている。このように増え続ける県民に対して、福祉や安心・安全な医療を提供すること及び住民のニーズにあった医学情報提供の場を設けることは重要な課題である。

また、滋賀県は中央に琵琶湖があるために、結果として環状になっている細長い県といえる。このため地域間のコミュニケーションが比較的とりにくく、医療機関や医療情報のネットワーク構築が求められている。

滋賀医科大学としては、このような地域の特徴を考慮しつつ、独自の新しい医学・看護学の教育・研究を推進するとともに、その成果を滋賀の地から国内はもとより世界に発信し、医学・看護学の発展に貢献すること及び高度な医療を提供することによって、人々の福祉の向上に寄与することを目標とする。

これらの目標を達成するために、構成員の「競争(個性化)」と「協調(和)」を軸にして、組織運営にあたる。

また、教育・研究・医療の一層の充実と基盤強化の観点から近隣の大学との再編・統合を検討する。

平成17年度重点分野【教育1 / 2】

学士教育

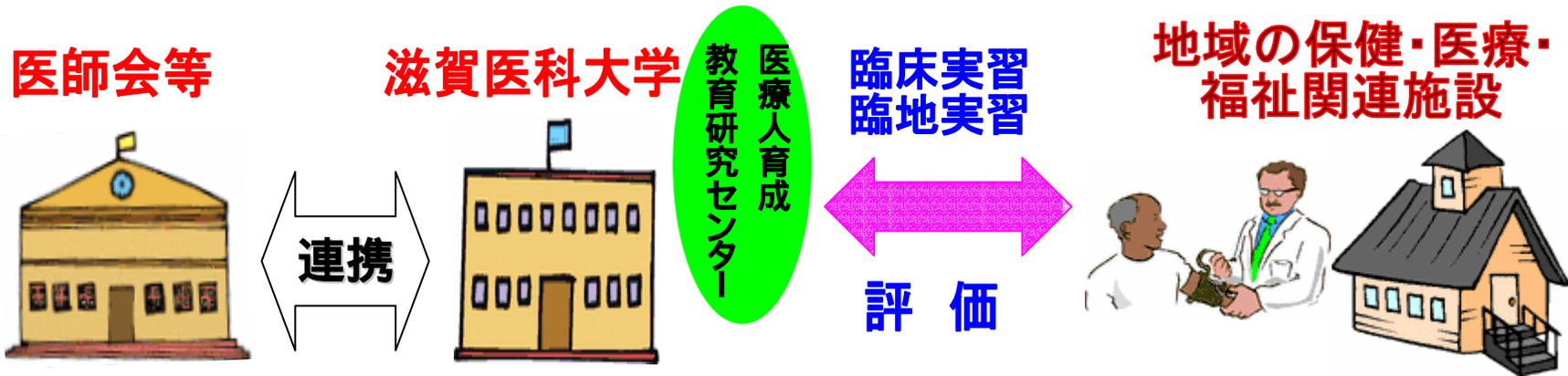
- 地域社会との連携を深めるため、医学科では滋賀県医師会との協力のもとプライマリーケア教育を実施し、看護学科では看護実践の総合的能力を養うため臨地実習を実施する。
- 学生の質向上と本学入学を希望する熱意ある学生を確保するため、一般選抜は今年度から後期日程試験を廃止し、前期日程のみとする。
また、前年度に引き続き学士編入学枠を拡大し、メディカル・スクール化を目指す。
- 医師国家試験においては95%以上、看護師国家試験においては98%以上及び保健師国家試験は95%以上の合格率を目指す。

大学院教育

- 大学院教育では実験実習支援センターなど学内の教育研究施設等との連携のもとに、実習も含めて大学院教育の充実を図る。

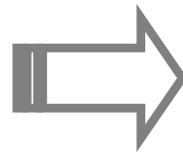
平成17年度重点分野【教育2 / 2】

地域社会との連携による教育の実施



■ 平成16年度臨床実習実績

- 1月～ 6h/日、4日/週、25診療所



■ 平成17年度臨床実習計画

- 4月～ 6h/日、4日/週、100診療所

平成17年度重点分野【研究1 / 2】

7テスラMR装置を用いた未来型低侵襲医学

JSTプロジェクト

MRガイド下手術法の臨床応用

MRで観察しながら
癌組織を破壊する



都市エリア産官学
連携促進事業

医療用マイクロロボットの
共同開発

人体に入って治療する
マイクロロボット

文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(S)

分子プローブ技術・細胞トラッキング法の開発

生体内の分子や細胞の動態を動物の体外から機能解析する

平成17年度重点分野【研究2 / 2】

サル疾患モデルを用いた医学研究

- 鳥インフルエンザワクチンの開発
- 体細胞核移植によるクローン胚の作成技術の確立
- アルツハイマー病モデルサルの作成に着手

平成17年度重点分野【診療1 / 2】

高度専門的心臓血管診療の推進

- 心不全の集約的治療
- 心臓血管カテーテル法を用いた冠動脈疾患治療、不整脈の最先端医療の推進
- 高度専門心臓血管手術(心拍動下冠動脈手術)の推進
- “No refusal policy”の徹底

生活習慣病に関する質の高い医療の提供

- 生活習慣病診療センターにおける生活習慣介入外来の推進
(栄養、運動、ストレス、禁煙管理)
- 全身動脈硬化症のスクリーニングシステムの導入による早期診断と発症予防

睡眠障害に関する臨床の重点化

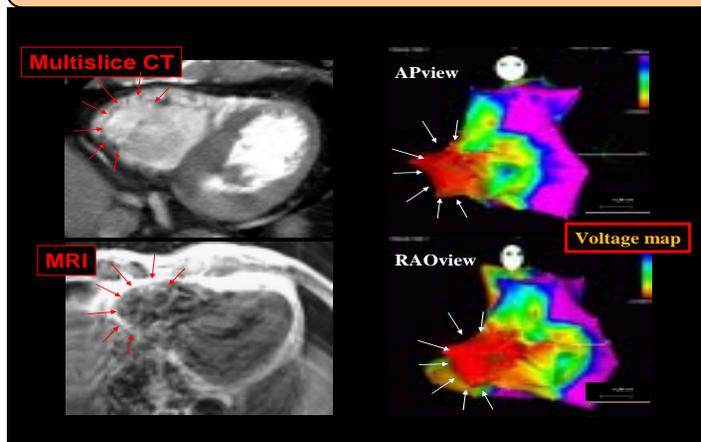
- 寄附講座の睡眠学講座と睡眠障害センターの連携のもとに、不眠症や睡眠時無呼吸症候群に関する診療の活性化、睡眠障害原因の究明や治療の推進

平成17年度重点分野【診療2 / 2】

心拍動下冠動脈バイパス手術



最先端の不整脈の診断と治療



生活習慣管理と動脈硬化症の 予防・治療

末梢動脈硬化
(Form PWV/ABI)



頸動脈硬化
(超音波エコー検査)



冠動脈硬化(電子ビームCT)



難治性睡眠障害の診断・治療



平成17年度重点分野【業務運営1 / 2】

経営に関する取り組み

- コスト構造改革を実施し効率化を目指すことで、余剰資金を創出する。その資金を活用し、一部は収入増の取り組みとしてパイロット的に実施していく。
- 附属病院管理会計システムを使って、診療科別の収支等をマネージメントしていく。

管理運営に関する取り組み

- 業務改善プログラムを実施し、効率的な業務を推進する
 - ・ 事務部門では各課別に管理者と業務実施担当者による業務ヒアリングを実施し、業務効率化等の取組みを実施する。
 - ・ 看護部門等では業務改善WGを立ち上げ、業務改善についての取組みを検討し実施する。
- 本学の情報共有システム「まるっと滋賀医大」を使って、学内の情報共有を積極的に推進し、各種業務に有効活用する。

平成17年度重点分野【業務運営2 / 2】

コスト構造改革の実施

コスト構造を見直す上での対策

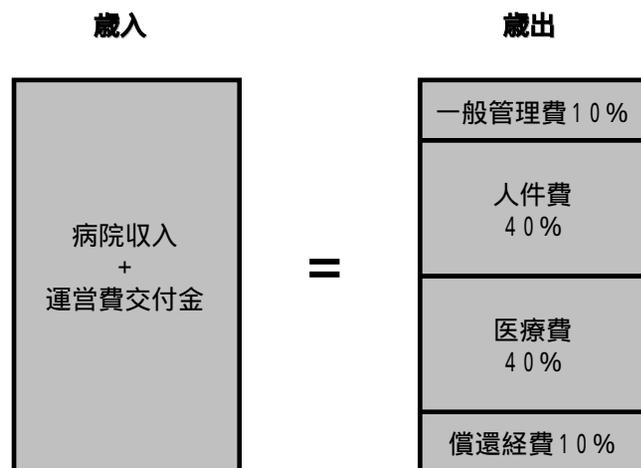
1. 病院収入に関すること
 - ・ 請求漏れ防止策（外来及び入院）
 - ・ 病院未収金管理の徹底
2. 間接費に関する対策
 - ・ 光熱費、消耗品等の一般管理費
 - ・ 医療費に関する対策
 - ・ 後発医薬品の拡大
 - ・ 材料の値引率拡大と在庫の圧縮
 - ・ 薬品の値引率拡大



無駄が生じているコスト領域を改善し余剰資金を創出

その資金をサービスの質的向上や学内教職員のがんばりに応えられるような資金サイクルを構築する

これまでのコスト構造



目指すべきコスト構造

